

東京国立博物館蔵『法然聖人傳繪』解説並びに影印・翻刻・索引

佐々木
五阿弥
佳子
勇

解説

一、東京国立博物館蔵『法然聖人傳繪』について

法然についての繪卷としては、知恩院蔵四十八卷(国宝)が有名である。これは、わが国に現存する繪卷の最大規模のものであり、日本の宗教史・書道史・絵画史・民俗史などの上から貴重な資料であるため、たびたび影印・翻刻が世に出ている⁽¹⁾。

また、法然の繪卷は、異本が多く作られた点で、他の繪卷と比較して、特異である⁽²⁾。

本稿で取りあげる東京国立博物館蔵『法然聖人傳繪』は、いわゆる琳阿本(妙定院蔵、全九卷)の巻第八にあたる一巻である。内題には、「法然聖人傳繪卷第八」とある。この巻では、法然の大谷婦還から往生、その供養を繪と詞とで記す。琳阿本と同じく九巻からなっていたものであるうが、現在、この巻第八以外は存在が知られていない。

作製時期は、「描法の諸特徴」から「鎌倉時代末期ころ」と推測されている⁽³⁾。書誌的ことからは、注中の参考文献に譲る。

二、詞書本文について

本資料の詞書は、本文の字体から、繪と同時期の十四世紀初頃に書かれたものと思われる。この詞書には、錯簡があることが指摘されている⁽⁴⁾。そこで、琳阿本の本文と対比させると次の様になる。(琳阿本の順に並べる)

1 76行目 大谷婦還・天童出現・老病・紫雲出現

118 148 上人往生

77 117

初七日・二七日供養・粟田口禪尼靈夢・三七日供養

(欠)

四五七日・六七日・七七日供養の前半

156 165

七七日供養の後半

149 155

公胤靈夢

四五七日・六七日・七七日供養の前半を欠くが、琳阿本の巻八の詞書にほぼ一致する。琳阿本系の古本といわれる所以である。欠けている四五七日・六七日・七七日供養の前半部分は、琳阿本と対照すると、本資料の一紙分にあたる。伝えられる中で、紙の貼り直しが行なわれ、その際、錯簡・欠損が生じたものであろう。これは、本資料の歴史的価値を低めるものではない。

なお、詞書は漢字ひらがな交じりであるが、公胤の夢に法然が現われて語る部分(149 155行目)は、漢文体で書かれている。これは、夢のお告げの言葉の特殊性をあらわしたものであろう。

三、訓点について

本資料には、漢字に振り仮名・声点が加点されている。

漢字に付された振り仮名の大部分は、本文書写からさほど降らない時期の加点であろう。その訓点の仮名全体の中で、少々古いかと思われるものが存する。

功驗コケン(151)

者ハ(151)

雜善ハ(152)

専修ハ(152)

為メ(153)

先ハ(154)

右のようなものであり、漢文の部分に見られる。この部分は、作成当初に書き込まれ、他の大部分の仮名はそれよりやや後のものかもしれない。訓点の大部分を占める片仮名には、本文の漢字を誤読したと見られる箇所もあり、本文書写者によつて加点されたものかどうかは不明である。また、若干の後筆も存する(「翻刻」では、それを「」に入れた)。

わずかながら見られる声点も、大部分の振り仮名と同時期の加點と見て良いであろう。

四、言語事象について

本資料詞書の言語事象について、この機会に若干を記したい。

I. 音韻・表記

A、漢字音

- ①唇内入声音の表記例は、全例「ウ」である。
- ②撥音韻尾 m・n の表記例は、全例「ン」である。⁽⁶⁾
- ③ㄱ・イとエ・エとは、音韻上の区別による書き分けではない。
- ④合拗音の表記クヰ・クエは見られない。すべてキ・ケとされる。⁽⁷⁾
- ⑤拗長音化を背景にして、リヨウをレウ、シヨウをセウとした例がある。

龍^{レン}(2) 勝^{セウ}(82)

⑥声点加點例は、次の七例である。

逆^{ギャク}(入濁鱗^{リン})(2) 權^{コン}(去濁)中納言^{ナゴノミ}(16)

風俗^{フウゾク}(入濁)(84)

彼岸^{ヒガン}(去濁)(89)

八幡宮^{ハチマング}(去濁)(101)

神^シ(去)

濁宮^{ダク}(106) 慈^シ(去濁)覺大師^{カク}(132)

すべて濁声点である。呉音声調にほぼ一致するが、去声加點字の「岸」は呉音平声であつて合わない。⁽⁸⁾

B、国語音

「朝臣」の仮名表記に「アツソン」「アンソン」の両形が見られる。促音化の反映である。促音化例としては、他に「敬^{ケイ}て」がある。

II. 文法

係助詞「こそ」に「体言十ヨ」が呼応する例が見られる。

あれこそ法然上人の御房の御躰よ⁽¹⁰³⁾

これは、鎌倉時代以降の新型とされている。

III. 語彙

①「ミギリ」

「右」の意の語「ミギ」と「ミギリ」とについて、詳しく論じたのは山田忠雄であつた。⁽¹⁰⁾ 山田は、その時点で、ミギリの例が少なく、漢文の訓点での例が報告されていないとしている。

近時、柏谷直樹は、「高山寺法鼓臺旧蔵「佛説天地八陽神呪經」について」⁽¹¹⁾の中で、十二世紀書写・加点の論文名中資料に「右ノ」とあることを指摘された。ただし、これは、「左ノ」の次文に対となつて出現する例である。

本資料の例は、「病^{ヒヤウヤウ}床^{ミヤリ}の右にむかへたてまつりて云」という単独例であり、音便形でもなく、貴重である。

山田は、ミギリを口語と考えている。そのために文献に例が少ないのであれば、本資料の訓点は、口語を反映する部分があることになる。

②「ニンニン」

本資料125・126行目に「弟子五六人^{ハニク}に^{シヨイン}助音^{シヨイン}す助音の人々は窮屈にをよふといふとも」という箇所がある。この「人々」は、本資料の本文で字音読語の繰り返しを示す疊符を用いているところから、「ニンニン」と読んだものと思われる。「ヒトヒト」の場合には、「人々」とされる(18行目参照)。

「ニンニン」は、多くの人ではなく、「助音シヨインの人」一人一人を指す。その意味で『日葡辞書』にも掲載されているが、本資料の例は比較的早いものである。⁽¹²⁾

五、本資料の影印・翻刻・索引について

法然の絵巻のうち知恩院蔵本以外は、辞典・目録・図録などに何枚かの写真が掲載されることはあったが、その全貌が写真で紹介されることはなかった。そのような中で、近年、『東京国立博物館図版目録 やまと絵篇』（東京美術、一九九三年）で東京国立博物館蔵本の全体が掲載され、有益である。ただし、この目録では、やまと絵としての紹介であり、詞書を判読するには写真が小さい。また、詞書の本文の漢字には振り仮名および声点が加点されているものがあり、国語史研究上重要であるが、それが読みとりにくいという恨みが残る。そこで、東京国立博物館のご許可を得て、あえて再度の写真掲載をするものである。

また、本資料の詞書全文の翻刻は、関忠夫「重要文化財 法然上人絵伝」〔MUSEUM〕No.275、一九七四年二月）のなかで、既に成されている。しかし、そこでは、本文の漢字に付された訓点はすべて省略されている。また、本文の読解にも従いたい点が存する。そこで、あらたに索引の本文として翻刻を試みた次第である。

本資料は、全体で一六五行という極めて短いもので、言語量は少ないが、国語史上重要と考え、語彙索引・漢字索引を作成した。

なお、本稿を成すにあたり、東京国立博物館蔵の原本閲覧の機会を与えていただいた。東京国立博物館の皆様深く感謝したい。

注

- (1) 比較的近いものでは、次のような出版がある。『続日本絵巻大成 1・2・3』（中央公論、一九八一年）、『続日本の絵巻 1・2・3』（中央公論、一九九〇年）。
- (2) 『法然上人伝の成立史的研究』第三巻 研究篇（知恩院、一九六二年）参照。
- (3) 『日本の美術 No.95 法然上人絵伝』（至文堂、一九七四年）の解説。
- (4) 関忠夫「重要文化財 法然上人絵伝」『MUSEUM』No.275、一九七四年二月。
- (5) 『浄土宗全書』十七による。
- (6) ただし、後筆「殯」の一例がある。また、本行平仮名の「めむく（面々）に」(12)の例があるが、別扱いにすべきであろう。
- (7) ただし、不審例「悔」の一例がある。
- (8) 入声以外は、すべて去声の加点例であることと関係があるかもしれないが、例数が少ないため不明である。
- (9) 大野晋『係り結びの研究』（一九九三年、岩波書店）一六一頁参照。
- (10) 「ミギとミギリ」（金田一博士古稀記念 言語民俗論叢）（三省堂、一九五三年）所収。
- (11) 『築島裕博士古稀記念 国語学論集』（汲古書院、一九九五年）所収。
- (12) 『日本国語大辞典』（小学館）には、最も古い例として『風姿花伝』が引かれている。

〔付記〕

本稿は、比治山女子短期大学専攻科の平成七年度授業「国語学特講Ⅰ」の成果である。受講生は、五阿弥佳子であった。本稿の担当は、次の通りである。解説…佐々木勇、翻刻…佐々木勇・五阿弥佳子、語彙索引…佐々木勇・五阿弥佳子、漢字索引…佐々木勇。

翻刻凡例

- 一、この翻刻は、東京国立博物館蔵『法然上人傳繪』を底本として、その詞書の全文を、底本の行取り・漢字かな交じり文のままに翻字したものである。仮名遣・振り仮名・返点の状態をもできるだけ底本に忠実に示そうとした。
- 一、漢字の字体は、底本の字体にできる限り忠実に活字化した。いわゆる誤字・俗字も底本のままに翻字した。
- 一、ひらがな・片仮名の字体は、印刷の便を考えて、現行の字体に改めた。底本の字体については、影印を参照された。
- 一、本文の振り仮名には後筆と見られるものがある。これは、「」に入れて区別した。
- 一、踊り字は、底本にしたがつて、ゝ・ゝゝ・ゝゝゝ・ゝゝゝゝで翻字した。
- 一、注記は、翻刻の最後に一括した。

1 沍然聖人傳繪卷第八

2 建曆ケンリヤク元垂辛未十一月廿日龍顔逆レ入リ瀧リ鱗ンの

3 いましめをやめて烏頭變毛ウトウヘンモウの宣旨センシを

4 かうふれり勝尾隱居インキヨの後鳳城ノチホウシヤウに還ケン

5 歸キあるへきよし 太上テンノウ天皇テンノウ順德シュントク院宣インセン

6 を下クタさる 仍ヨテ吉水サキノの前大僧○正慈圓正慈圓の
慈鎮和尚也

7 御沙汰として大谷フタニの禪房ゼンバウに居スベたて

8 まつらる

9 昔ムカシ釋尊シヤクソウ切利シタウリの雲クモより下クタリ給タリしを人天

10 大會エよろこひおかみたてまつりしか

11 ことく上人ナシカイ南海ナミの浪なみをさかのほり

12 給タへは道俗男女めむくクヤウに供養クヤウを

13 のへたてまつること一日夜のうちに

14 三千餘人ヨと云イウ幽閑「カン」の地チをしむと

15 いゑとも貴賤キセン高卑カウヒあつまり参事

16 さかりなる市イチのことし權ゴン去瀧去瀧中納言光親ナコンミツチカノ

17 卿奉行キヤウフキヤウにて歸京キキヤウのよし仰出ヲ、セイタクされ侍

18 けりこの時にあたりて人く本望ホンハウ

19 やすまりぬ或雲客夢アルウンカクユメニにみらく上人

20 参内サンナイの時天童五人雲クモにのりて管ツツ

21 絃ケン遊戯ユゲ天蓋テンカイをさしおほいたて

22 まつる夢ユメさめて聞トクに上人内裏クイリへ

23 マイリ
参たまへり不思議なりし事も

24 ケンリヤク
建曆二年ミツノヘ正月一日より老病ラウヒヤウそら

25 コ
に期して蒙昧身ムマイにいたれりまつ所トコロ

26 たのむところまことによるこはしき

27 カウシヤウ
かなとて高聲念仏不退也タイ或時弟子にアルトキ

28 ツケ
告てのたまはく我もと天竺テンチクにありて

29 シヤウモン
聲聞僧にましわりて頭陀ツタを行き

30 キタリ
いま日本國に来て天台宗テンタイシュを學てカク

31 又念仏をすゝむ身心に苦痛クラウなく蒙ム

32 マイ
昧たちまちに分明フンミヤウ也抑ソモク我往生はアハ

33 ケツエン
一切衆生結縁のため也我もと居せキヨ

34 しところなれはかへりゆくへしたゝ

35 インダウ
人を引導せむと思と云ゝ

36 タツ
十一日の辰の時上人おきゐて高聲カウシヤウ

37 ミナ
念仏し給きくひと皆涙をなかつ弟テ

38 シラ
子等につけてのたまはく高聲カウシヤウ念仏す

39 へし阿弥陀佛のきたりたまへる也この

40 トナツ
佛の名号を唱れは一人も往生せず

41 クトク
と云事なしといひて念佛の功德を

42 サンダ
讃嘆したまふことあたかも昔のこ

43 とし上人またのたまはく觀音勢至

44 ケンゼン
等の菩薩聖衆現前したまへり各オノオノ

- 45 おかみたてまつるにやいなやと弟子等を
- 46 かみたてまつらすと云々これをきゝて
- 47 いよく念仏せよとすゝめ給そのゝち弟
- 48 子等臨終のために三尺の弥陀の像を
- 49 病^{ヒヤウシヤウ}床^{ミヤコ}の右^{ミヤコ}にむかへたてまつりて云この
- 50 佛おかみたまふへしと于^{トキニ}時上人
- 51 ゆひをもちてそらをさしてのたまはく
- 52 此佛の外に又佛おはしますおかむや
- 53 とすなわちかたりて云凡この十餘^ヨ季
- 54 よりこのかた念仏^{ノコウ}功^{コウ}つもりて極樂の
- 55 莊嚴^{シヤウゴン}をよひ佛菩薩等の身を見たて
- 56 まつることは是恒^{コレツネ}のこと也しかれとも年
- 57 來これをいはすいま没^{モツ}後にのそめり
- 58 故^{カルカユヘ}にしめすところなり又弟子等佛の
- 59 御手^テに五色^{シキ}の糸^{イト}を付^{ツケ}てすゝむれは
- 60 これをとりたまはす上人のたまはくか
- 61 くのこときの事はこれつねの人の
- 62 儀式^{キシキ}なり我みにをきてはいまかならずし
- 63 もしかるへからすと云てつゐにこれ
- 64 をとりたまはす廿日^{ニシ}巳時^{シウノアイタイ}紫雲^{シウノアイタイ}後^ゴ健^{ケン}
- 65 として坊の上に垂布^{スイフ}せりなく
- 66 たなひきて又圓形^{エンキヤウ}の雲^{クモ}もあり圖繪^{ツヱ}

- 67 形像の圓光のことくして五色鮮キヤウワウ エンクワウ シンゼン
- 68 潔なり路次往反の人處々にこれをみガツ ロンツワヘン ショク
- 69 弟子申さくこのうゑに紫雲まさシツ シン
- 70 につらなれり往生のちかつき給へるか
- 71 と上人きゝてのたまはくあはれなるかな
- 72 わか往生は一切衆生をして念仏を信シン
- 73 せしめむかためなりと未時にことヒツシノ
- 74 めをひらきて西方へみをくり給事
- 75 五六返看病の人問て云佛の来給カンヒヤウ トイ キタリ
- 76 かと答てのたまはくしかなりと云コタヘ
- 77 その時建曆二年壬申正月廿五日午ケンリヤク ミツノヘ ウツ
- 78 正中遷化行年シヤウヂウセンケ 行年 フンシ伏惟ハツハチは釋尊圓寂の
- 79 月にすゝめる一月茶毗の燈カヒ トモンヒことなりと
- 80 いへとも弥陀感應の日にしりそくことカンブツ
- 81 十日利生の風リシヤウ カゼこれをなしきをやフウ
- 82 觀音垂迹スイシヤクの勝地勢至方便の善巧かくセウチ センクウ
- 83 のことししかうしてのち門弟等世間の
- 84 風俗フウソク（入濁）にまかせて遺骨キコツをおさめチウイン中陰
- 85 の孝行ケウキヤウをいたす初七日御導師信蓮坊シンレン
- 86 不動尊フドウソンを供養クヤウす大宮入道大臣家の
- 87 諷誦フシユの文云夫ソレヲモンミレハセンシソンシヤウ以先師存生のむかし弟子
- 88 遁朝トンテウのゆふへ一心精進シヤウシンの誠マコトを凝て「マコト」

89 十重戒チウカイをうく故に得度トクトを彼岸ヒカン去廻キョウに

100 しますときにこれは上人サウジンの葬送サウソウ

90 たのみて敬ウヤマツて諷誦フシユを此砌コノミキリに修シユす小善

101 のところにはあらず八幡宮ヤシタウ（去廻キョウ）也とおもへ

91 根「キラツ」と嫌事「キラツ」なかれかならず大因縁インエンと

102 はかたわらの人その御正躰シヤウタイをさして

92 ならん仍蓮臺ヨテレンタイの妙業メウコウをかさらむか

103 云あれこそ法然上人の御房の御躰グイよと

93 ために早ハヤク覺鐘フシユの蓮韻レンタインを叩タ別當ヘツタウ

104 いふこれを聞キて身の毛豎ケタチてあせを

94 前周防守源サキノスワウノカミハナモトノアツソン朝臣盛親敬白モリチカ二七日普賢フケン

105 なかしてさめぬこの夢ユメ又奇特キトクなり

95 菩薩御導師求佛坊云クフツ建曆二年ケンリヤク

106 抑ソモク神ジン（去廻キョウ）宮皇后クウクワウコク元年（6）辛カト巳ミ大菩薩御誕生ダイサツヲミタマナリ

96 二月三日夜別當ヘツタウ惟方入道ユヱフの娘ムスメ栗田アワタ

107 の時八の幡ふりき故に八幡大菩薩

97 口の禪尼夢センニユメにみらく上人「ヒムニサウ」殯葬インサウ

108 と号カウしたてまつるいまの上人タンシヤウ誕生タマナリの

98 の所トコロに参マイリたれば八幡宮マンクウの御戸ミドをひら

109 時ふたつのはたふれり大菩薩の

99 くかとおほめ御正躰シヤウタイ等そのうちにおは

110 御本地ホンチを行教和尚キヤウウケウワシヤウみたてまつらん

- 111 と祈願^{キクワン}したまひしかは袂^{タモト}のうへに阿弥陀
- 112 如来うつりたまひき三七日弥勒導師^{ミロク}
- 113 住真坊弟子湛空誦經物をさゝく義^{チウシン}
- 114 氏か摺本一紙をもちて十二行八十餘^シ
- 115 字
- 116 西へよしゆくへき道のしるへせよ^{ニシ}
- 117 むかしもとりのあととありけり
- 118 抑^{ソモク}七八年の初當或^{シヨクアル}雲客^{ウンカク}兼隆^{カネタカ}夢に^{ソノカミ}
- 119 みる様上人御臨終の時は光明遍照
- 120 の四句^{シク}の文を唱給^{トナヘ}へしと云々こゝに
- 121 上人廿三日以後三日三夜あるいは一時
- 122 或^{アルイ}は平時^{ハンシ}高聲^{カウシヤウ}念仏不退^{ダイ}のうゑこと
- 123 に廿四日酉^{トリノコウ}尅^{コク}より廿五日の巳尅^{ミノコウ}にいたる
- 124 まては高聲念仏^{ダイ}を責^{「セメテ」ムケシ}無間なり
- 125 弟子五六人番々に助音^{シヨイン}す助音^{シヨイン}の
- 126 人々は窮屈^{キウクツ}にをよふといゑとも老牀^{ラウダウ}
- 127 病惱^{ヒヤウナウ}の身高聲念佛勇猛^{ユミヤウ}にして
- 128 をこたらす參集^{サンシユ}せる道俗見聞^{ドウソクケンモン}せる
- 129 老少讚嘆^{サンタシ}せすと云事なし午の時^{ウマ} (8)
- 130 到^{イタリ}て念仏の聲^{コエ}やうやくかすかにて
- 131 高聲^{カウシヤウ}は時々あひまはるまさしく
- 132 取後^{サイコ}に望時^{ノソム}は年来所持^{ネンライシヨチ}の慈^シ覺大師^{カク}

- 133 の九條テウの袈裟ケサをかけて頭北面西ツホクメンサイに
- 134 して光明遍照十方世界念佛衆生攝
- 135 取不捨の文を誦シユして念佛のいき絶グヘ
- 136 たまひぬ聲止コエト、マリ てのちなをくちひる
- 137 舌を動シタ 事十餘遍計ウコカス ヨヘンヅカリ 也于時トキニ春秋シユハル アキ
- 138 滿八十夏マン カラウ 鴈六十六身シンヅイニウナン 跡柔軟ニウナンにして
- 139 容兒ヨウメツつねのことし惠燈エトウすてにきえ
- 140 法身ホフシンまた没モツして貴賤哀慟キセンアイトウして考妃カウヒ
- 141 を喪サツせるかことしこゝに弟子等シシトウも憂ウ
- 142 悲啼哭ヒテイコクしなから彼砌カヅミキリに葬サウし
- 143 たてまつる季節キセツいかなることそや
- 144 釋尊滅シツソンメツをとなへたまひ上人滅ジョウジンメツをとな
- 145 うかれは二月中旬ニゲツチュウジュンの五日也ニイチニチこれは正月
- 146 下旬シユンの五日なり八句いかなるとしそや
- 147 釋尊シツソンも滅メツをとなへ給上人滅キョウジンメツをとなう
- 148 かれも八十なりこれも八句也
- 149 その夜の夢ユメに上人公胤コウエンに告ツケテ云往生クの
- 150 業ゴウの中に一日六時ニシ一心不乱ランニ念ネンする
- 151 功驗最コウケンモハラ第一ダイイチなり六時シロ稱名シヨウメイ者往生カナラズ必カナラズ
- 152 決定ケツギ雜善ハハ不決定フケツギ一專修決定善源ナリク一
- 153 空メニ為ニ孝養コウヤウ一公胤能說法成善コトヲ一不可盡メニ
- 154 臨終ニツカフ先迎接源セン空本地身大勢至菩ホチノハ

155 薩^{ナリ}衆生^{ヲクメノクセン}爲^ニ化^ニ故^ニ來^ニ此^{コト}界^{コノカイ}度^ニ云^{ナリト}々^ニ云^{ナリト}々

156 をのく一部開眼開題^{フカイガンカイグイ}一心^{コン}の懇志^{コン}

157 三寶知見したまへと云々凡^{ソレヲ}このあひ

158 た佛事いとなみ諷誦^{サヘクル}を捧^{コレヲ}人^{ハシ}是多^シ

159 僧正唱導を望^{イソミ}給^{ユヘ}へる故は上人

160 所造^{サウ}の選擇^{センチャク}集^ハを破^ハせむかために

161 浄土決疑抄^{キンヨクワシヨ}三卷^{クワン}をつくる上人

162 面謁^{メンカツ}の時重々^{デウ}の問答^{モンタウ}にことくく

163 くつかへされて悔悲^{クエカネシミ}てみつか^{ヤキ}から焼^{ヤキ}

164 すてゝ歸伏^{キフク}しぬなをそのとかをかなし

165 みて没後^{モツゴ}の導師^{ダウシ}をつとめけり

注

(1) 「天」のかなの下欠と見る。

(2) 「曾」と見ての注か。

(3) 「結」と見ての注か。

(4) 「問」と見ての注か。

(5) 「テ」の欠損か。

(6) 「コク」ママ。

(7) 「イハ」を擦り消し。

(8) 「に」が有ったか。

語彙索引凡例

一、この索引は、東京国立博物館蔵『法然上人傳繪』に用いられているすべての語を、翻字本文にもとづいて、収載したものである。

一、各項の記載形式は、見出し語・本文の用例・用例の所在行数、とした。

一、見出し語は、ひらがなで歴史的仮名遣（字音語は字音仮名遣）によって統一し、濁点を附した。いわゆる清濁の識別は、決定困難なものが少なくないが、当時の文献などを参考として定めた。そのうえで、排列は最終音節までの五十音順とした。

一、用例は、翻字本文に基づき、その表記に従った。

一、用例は、自立語で活用しないものはその語を掲げること原則とし、自立語で活用するものはそれに続く語をも掲出した。また、付属語は、その語の前後も掲出した。

一、用例は、すべて出現順に掲出した。ただし、同一の例は初出の例の所在行数の下に行数を加えるのみとした。

一、用例の所在は、原本の詞書の行数で示した。これは、翻字本文の行数とも一致する。

あ

あひだ (間)

い

いちしむふらん (一心不乱)

いち心不乱

あいたい (贅難)

あひまじはる (合交)

いうかん (幽閑)

復健として

あひまじはる

幽閑

14

あいどうす (哀慟)

あみだによらい (阿弥陀如来)

いかなる (如何)

143

哀慟して

阿弥陀如来

いかなる

146

あき (秋) ↓はるあき

あみだぶつ (阿弥陀佛)

いき (息)

135

あせ (汗)

阿弥陀佛

いき

135

あせ

あらず (非)

いご (以後)

121

あそん (朝臣) ↓かねたかの

あらず

以後

121

あそん・みなものあそん

あり (有) ↓あらず

いたす (致)

85

もちちか

あるへき

いたす

85

あたかも (恰)

ありて

いだす (出) ↓おほせいだす

25

あたかも

あり

いたる (到)

25

あたる (当)

ありけり

いたる (到)

25

あたりて

ある (或)

いたる (到)

25

あつそん (朝臣) ↓あそん

ある (或)

いたる (到)

25

あつまる (集)

ある (或)

いたる (到)

25

あつまる (集)

ある (或)

いたる (到)

25

あと (跡)

ある (或)

いたる (到)

25

あと

ある (或)

いたる (到)

25

あはたぐち (粟田口)

ある (或)

いたる (到)

25

粟田口

ある (或)

いたる (到)

25

あはれ (哀)

あれ (彼)

いちしむ (一心)

88

あはれなるかな

あれ

一心

156

鎌倉時代語研究

二八二

云て	63	うとうへんもう (烏頭變毛)	おこたる (怠)	おもむ (御) ↓ご	
いふ	104	烏頭變毛	をこたらす	おもて (御手)	
いへども (雖)		うひ (憂悲)	おこなふ (行)	御手	59
いゑとも	15 126	憂悲	行き	おむと (御戸)	
いま (今)	80	うへ (上)	おなじ (同)	御戸	98
いま		上	をなしきをや	おもふ (思)	
いましめ (戒)	30 57 62 108	うゑ	おのおの (各)	思と	35
いましめ	3	うへ	をのく	おもへは	101
いよいよ (彌)		うま (午) ↓うまのとき	各	おもんみる (惟・以)	
いよいよ	47	午	おはします (御座)	伏惟 フツモシニレハ	78
いよく		うまのとき (午時)	おはします	夫以 ソレモシニレハ	87
いんきよ (隠居)	4	午の時	おはしますとき	および (及)	55
隠居		うやまふ (敬)	おほし (多)	をよひ	
いんだうす (引導)	35	敬て	おほせいだす (仰出)	および (及)	126
引導せむ		うんうん (云々)	仰出され	をよふと	
う		云々	おほたに (大谷)	か	
うく (受)		うんかく (雲客)	おほふ (覆) ↓さしおほふ	か《助詞》	
うく	89	雲客	おほふ	ちかつき給へるかと	70
うごかす (動)		お	おほみやにふだう (大宮入道)	来給かと	99
動事	137	おきある (起居)	大宮入道	ひらくかと	76
うち (内)		おきゐて	おぼゆ (寛)	が《助詞》	
うち	13 99	おく (置)	おほゆ	おかみたまつりしかこ	
うつる (映)		をきては	おほよそ (凡)	とく	10
うつりたまひ	112	おくる (送) ↓みおくる	凡	信せしむかためなり	73

かさらむかために 義氏か摺本	92	うひ	かなしむ(悲) 悔悲 <small>くわい</small> て	163	かんおう(感應) 感應	80
喪せるかことし 破せむかために	141	かうふる(被) かうふれり	かなしみて	164	かんびやう(看病) 看病 <small>かんびやう</small>	75
かい(界)	160	かうやう(孝養) 孝養	かならず(必) かならず <small>かならず</small>	91	き	
かいげん(開眼) 開眼	155	かく(掛) かけて	かならずしも(必) かならずしも	151	き《助動詞》 下給しを	9
かいだい(開題) 開題	156	かく(斯) かく	かねたかのおそん(兼隆朝臣) 兼隆朝臣 <small>かねたかおそん</small>	62	おかみたてまつりしかこ とく	10
かう(行) ↓じふにかう	156	かざる(飾) かざる	かの(彼) 彼 <small>かの</small>	118	不思議なりし事也 行き	23
かうしやう(高聲) 高聲	131	かすか(微) かすかにて	かのとのひつじ(辛未) 辛未	142	居せしところ ふりき	29
かうしやうねむぶつ(高聲念仏) 念仏	122	かぜ(風) かぜ	かのとのみ(辛巳) 辛巳	2	祈願したまひしかは うつりたまひき	33
高聲念仏 高聲念仏	124	かたはら(傍) かたはら	かへりゆく(帰行) かへりゆくへし	106	きうくつ(窮屈) 窮屈	107
高聲念佛 高聲念佛	127	かたる(語) かたりて	かみ(守) ↓すはうのかみ からふ(夏臘)	34	きく(聞) 聞に	112
がうす(号) 号したてまつる	108	かつを(勝尾) 勝尾	かるがゆゑに(故) 故 <small>かるがゆゑ</small> に	138	きくひと きゝて	111
がうせふす(迎接) 迎接	140	かな《助詞》 よろこはしきかなとて	かれ(彼) かれ	58	きぐわんす(祈願) 祈願したまひ	37
かうひ(高卑) ↓くみせんか	140	あはれなるかな		145 148		71

ぎし <small>(義氏)</small> 義氏	113	きよす <small>(居)</small> 居せし	33	くゆ <small>(悔)</small> 悔悲て	163	くみせん <small>(貴賤)</small> 貴賤	140
ぎしき <small>(儀式)</small> 儀式	62	きらふ <small>(嫌)</small> 嫌事	91	くらう <small>(苦勞)</small> 苦痛	31	くみせんかうひ <small>(貴賤高卑)</small> 貴賤高卑	15
させつ <small>(季節)</small> 季節	143	く		くわう <small>(皇后)</small> くわう <small>(皇后)</small>	↓じんぐ	くみふくす <small>(歸伏)</small> 歸伏しぬ	164
きたる <small>(来)</small> 来て	30	くだす <small>(下)</small> 下さる	6	くわう <small>(光明)</small> くわう <small>(光明)</small>	↓くめ	くゑす <small>(化)</small> 化	155
きたりたまへる 来給か	39	くだる <small>(下)</small> 下給し	9	くわしやう <small>(和尚)</small> くわしやう <small>(和尚)</small>	↓ぎやう	くゑんくう <small>(源空)</small> 源空	152
きたる <small>(奇特)</small> 奇特なり	105	くちびる <small>(唇)</small> くちひる	136	くわんおん <small>(観音)</small> くわんおん <small>(観音)</small>	↓くゑん	くゑんくゑん <small>(還歸)</small> 還歸	4
きやう <small>(卿)</small> きやう <small>(卿)</small>	155	くつがへす <small>(覆)</small> くつかへされて	163	くゑん <small>(管絃)</small> くゑん <small>(管絃)</small>	↓くゑん	け <small>(毛)</small> 身の毛	104
きやう <small>(行)</small> きやう <small>(行)</small>	78	くつがへす <small>(覆)</small> くつかへされて	133	くわんだい <small>(巻第八)</small> くわんだい <small>(巻第八)</small>	↓じんぐ	けいびやく <small>(敬白)</small> 敬白	94
ぎやう <small>(行)</small> ぎやう <small>(行)</small>	67	くぶつばう <small>(求佛坊)</small> 求佛坊	95	くわんねん <small>(元年)</small> くわんねん <small>(元年)</small>	↓じんぐ	けうぎやう <small>(孝行)</small> 孝行	85
ぎやう <small>(消)</small> ぎやう <small>(消)</small>	139	くゑ <small>(雲)</small> 雲	9	くゑ <small>(雲)</small> くゑ <small>(雲)</small>	↓じんぐ	げきりん <small>(逆鱗)</small> 逆入逆鱗	2

けさ(袈裟)	133	たい・ごたい・ごだうし・ ごたんじやう・ごばう・ご ほんぢ・ごりむじゆう	あれこそ法然上人の御房 の御躰よ	ごにち(五日)	145 146
げじゆん(下旬)	146	こう(功)	ごたい(御体)	ごにん(五人)	20
正月下旬		功	御躰	五人	
けつえん(結縁)	33	こういん(公胤)	ごだうし(御導師)	この(此)	
結縁		公胤	御導師	この	18 39 49 53 69 105 157
けつぢやう(決定)	152 152	公胤	こたふ(答)	此	90 155
決定		公胤	答て	此	52
不決定	152	こうげん(功験)	ごたんじやう(御誕生)	このかた(此方)	
不決定		功験	御誕生	このかた	54
けり(助動詞)	18	こく(尅) ↓とりのこく・み	こと(事)	ごぼう(御房)	
仰出され侍けり	117	のこく	こと	御房	103
ありけり	165	ごくらく(極楽)	事	ごふ(業)	150
つとめけり		極楽	コト	業	
げんぜんす(現前)	44	ここに(此处)	こと(異) ↓ことに	ごほんぢ(御本地)	110
現前したまへり		ここに	ことなり	御本地	
けんもんす(見聞)	128	ごさた(御沙汰)	ことごとく(悉)	こらす(凝)	88
見聞せる		御沙汰	ことくく	凝て	
けんりやくぐわんねん(建暦元年)	2	ごしき(五色)	ごとし(如)	ごりむじゆう(御臨終)	119
建暦元年		五色	ことく	御臨終	
けんりやくにねん(建暦二年)	24 77 95	ごしやうたい(御正体)	ごとし	これ(是)	104
建暦二年		御正躰	こときの	これ	46 57 60 61 63 68 81 100 145 148
二		ごす(期)	ことくして	是	56 158
ご(御) ↓ごさた・ごしやう		期して	ことに(異)	これかたにふだう(惟方入道)	
		こそ《助詞》	ことに		

惟方入道 コソカタ	96	さかのぼる(迦)	さむじやく(三尺)	しかなり	76
ごろくにん(五六人)		さかのほり給へは	三尺	しかうして(而)	
五六人	125	さかり(盛)	さむじゆす(参集)	しかうしてのち	
ごろくへん(五六返)		さかりなる	参集せる	じかくだいし(慈覺大師)	83
五六返	75	さき(前)	さむぜんよにん(三千餘人)	慈覺大師	132
二多(聲)		前	三千餘人	しかり(然)	
聲	130 136	ささぐ(捧)	さむだい(参内)	しかるへからすと	63
こんし(懇志)		さつく	参内	しかれども(然)	
懇志	156	捧人	さむにち(三日)	しかれども	56
ごんちうなごん(権中納言)		さしおほふ(差覆)	二月三日	しく(四句)	
権中納言	16	さしおほいたてまつる	さむにちさむや(三日三夜)	四句	120
さ		さす(指)	三日三夜	した(舌)	
		さして	さむぼう(三寶)	舌	137
さいご(最後)		さた(沙汰)↓こさた	三寶	しちはちねん(七八年)	
最後	132	ざふぜん(雜善)	さむや(三夜)↓さむにちさ	七八年	118
さいはう(西方)		雜善	むや	じちん(慈鎮)↓じゑんじち	
西方	74	さぶらふ(侍)	さんたんす(讃嘆)	んくわしやう	
ざう(像)		侍けり	讃嘆したまふ	して(助詞)	
像	48	さむ(寛)	讃嘆せず	御沙汰として大谷の禪房	7
さうす(喪)		さめて	し	に居たてまつらる	
喪せるかことし	141	さめぬ		後隼として坊の上に垂	65
さうす(葬)		さむくわん(三卷)	じ(字)↓はちじふよじ	布せり	
葬したてまつる	142	三卷	しうん(紫雲)	ことくして五色鮮潔なり	67
さうそう(葬送)		さむしちにち(三七日)	紫雲	一切衆生をして念仏を信	
葬送	100	三七日	しか(然)	せしめむ	72

勇猛 <small>ユウマウ</small> にしてをこたらず	127	しめす(示)		しよざう(所造)	160
頭 <small>カウ</small> 北面西にして光明 <small>ミョウミョウ</small> 遍照		しめすところなり	58	所造 <small>ショゾウ</small>	
……の文 <small>モン</small> を誦 <small>ショ</small> して	134	しやうぐわつ(正月)		しよしちにち(初七日)	85
柔軟 <small>ニウエン</small> にして容兒 <small>ヨウジ</small> つねのこ		正月	24 77 145	初七日	
とし	138	しやうぐむ(莊嚴)		しよしよ(處々)	
じふいちぐわつ(十一月)	2	莊嚴	55	處 <small>ショ</small> に	68
十一月		しやうじゆ(聖衆)		しよたう(初當)	
じふいちにち(十一日)	36	聖衆	44	初當 <small>ショタウ</small>	118
十一日		しやうじん(精進)	88	しよぢ(所持)	
じふぢうかい(十重戒)	89	精進		所持 <small>ショチ</small>	
十重戒 <small>ジュウゲイ</small>		しやうたい(正鉢) ↓ごしや		しりぞく(退)	80
じふにかう(十二行)	114	うたい		しりぞくこと	
十二行 <small>ジュニギョウ</small>		しやうだう(唱導)	159	しるべ(導)	116
じふにち(十日)	81	唱導		しるへ	
十日		しやうちう(正中)	78	じゑんじちんくわしやう(慈圓慈鎮和尚)	
じふはうせかい(十方世界)		正中		慈圓慈鎮和尚	6
十方世界	134	じやうどけつぎしやう(淨土決疑抄)	161	じんぐうくわうごうぐわんねん(神宮皇后元年)	
じふよねん(十餘年)	53	淨土決疑抄 <small>ジュツトケツギショウ</small>		ん(神宮皇后元年)	106
十餘年		しやうにん(上人) ↓ほふね		神 <small>シン</small> 美濃 <small>ミノウ</small> 宮皇 <small>ミヤウ</small> 后元年	
じふよへん(十餘遍)	137	んしやうにん・ほふねんし		しんしむ(身心)	31
十餘遍		やうにんでんゑ		身心	
しむ(占)	14	上人	11 19 22 36 43 50 60 71 97	しんず(信)	
しむ		上入	100 108 119 121 144 147 149 159 161	しんたい(身鉢)	72
しむ《助動詞》		しやうもんそう(聲聞僧)			
信せしめむかため	72				

身躰 ^{シントイ}	138	をかみたてまつらすと	46	善巧 ^{ゼンコウ}	82
しんれんぼう (信蓮坊)		いはす	57	せんけつ (鮮潔)	
信蓮坊	85	とりたまはす	60	鮮潔なり	67
す		しかるへからすと	64	せんし (先師)	
す (為) ↓ あいとうす・いん		をこたらす	128	せんじ (宣旨)	87
だうす・がうす・がうせつ		讃嘆 ^{ソウタン} せすと	129	せんしう (専修)	3
す・きぐわんす・きよす・		不決定 ^{フケツテイ}	152	専修	152
くみふくす・くゑす・げん		不可盡 ^{フコケン}	153	せんちやくしふ (選擇集)	
ぜんす・けんもんす・ごす・		すいじやく (垂迹)	82	選擇集	160
さうす・さんじゆす・さん		垂迹 ^{スヱツヤク}	65	ぜんに (禪尼)	97
たんす・しゆす・じゆす・		すいふす (垂布)	7	ぜんばう (禪房)	7
しんず・すいふす・せつほ		垂布せり	65	禪房	
ふす・ちけんす・ていこく		すう (居)	79	そ	
す・ねむず・はす・もつす・		居たてまつらる	7		
ゆげす		すすむ (進)	79		
カウシヤウ		すすめる			
高聲 念仏し給	37	すすむ (勸)			
カウシヤウ		すゝむ	31		
高聲 念仏すへし	38	すゝめ給	47		
往生せず	40	すゝむれば	59		
念仏せよと	47	すつ (捨) ↓ やきすつ			
供養す	86	すでに (既)	139		
しるへせよ	116	すてに	78		
助音す	125	すなはち (即)			
ず 《助動詞》 ↓ あらず		すなわち	53		
往生せすと	40				

そもそも 抑 <small>おさ</small>	32 106 118	太上天皇 <small>テノミミ</small>	5	たたく <small>タツ</small> (叩)	93	だび <small>ダビ</small> (茶毘)	79
ぞや《助詞》		大臣家	86	たちまちに (忽)		たまふ <small>タマフ</small> (給)	
いかなることそや	143	だいせいしばさつ (大勢至菩薩)		たちまちに	32	下給し	9
いかなるとしそや	146	大勢至菩薩	154	たつ <small>タツ</small> (豎)	104	さかのほり給へは	12
そら (空)		だいそうじやう (大僧正)		堅て		参 <small>マシ</small> たまへり	23
そら	51	大僧正	6	たつのとき (辰時)	36	高聲 <small>カウシヤウ</small> 念仏し給	37
そらに (空)		だいはいち (第八) ↓くわんだ		辰の時		きたりたまへる也	39
そらに期して	24	いはち		たてまつる (奉)	7	讚嘆 <small>サンタン</small> したまふこと	42
それ (夫)		だいばさつ (大菩薩) ↓はち		居たてまつらる	10	現前 <small>ゲンゼン</small> したまへり	44
夫 <small>ソレ</small> 以 <small>モト</small> ハ	87	まんだいばさつ		おかみたてまつりしか	13	すゝめ給	47
ぞんしやう (存生)	87	大菩薩	106 109	のへたてまつること	7	おかみたまふへしと	50
存生 <small>ソンシヤウ</small>		だいり (内裏)		さしおほいたてまつる	21	とりたまはす	60
た		内裏	22	おかみたてまつるにや	45	ちかつき給へるか	70
たい (駄) ↓ごたい		だうし (導師) ↓ごだうし		をかみたてまつらすと	46	みをくり給事	74
駄 <small>タ</small>	124	導師	112	むかへたてまつりて	49	来 <small>キ</small> 給かと	75
だいいち (第一)	151	導師	165	見たてまつること	55	祈願 <small>キガン</small> したまひしかは	111
第一なり		だうぞく (道俗)		号したてまつる	108	うつりたまひき	112
だいいんえん (大因縁)	91	道俗	12	みたてまつらんと	110	唱 <small>ナゲ</small> 給へしと	120
大因縁 <small>ダイインエン</small>		道俗	128	葬 <small>ナゲ</small> したてまつる	143	絶たまひぬ	136
だいし (大師) ↓じかくだい		たうり (切利)	9	たなびく (棚引)	66	となへたまひ	144
し		切利		たなひきて		となへ給	147
たいじやうてんわう (太上天皇)		ただ (只)	34	たのむ (頼)	26	知見 <small>チケン</small> したまへと	157
皇		たゝ		たのむところ	90	望 <small>ノゾミ</small> 給へる故は	159
				たのみて		ため (為)	

ため	33	ちかつき給へる	つるに	63	しわりて頭陀 ^{ツタ} を行き	29
為 ^メ	48	ちけんす(知見)	つぼくめんさい(頭北面西)		来て天台宗 ^{テタイシュ} を學て又念仏	
為 ^メ	73	知見したまへ	頭北面西にして	133	をすゝむ	30
たもと(袂 ^{タモト})	153	つ	つもる(積)		来て天台宗 ^{テタイシュ} を學て又念仏	
袂 ^{タモト}	155		つもりて	54	をすゝむ	30
たゆ(絶)	111	つき(月)	つらなる(連)		おきぬて高聲 ^{カウシヤウ} 念仏し	36
絶たまひぬ	135	月	つらなれり	70	つけてのたまはく	38
たり(助動詞)		つく(付)	づ糸(圖繪)	66	といひて念佛の功德 ^{クツトク} を讃 ^{サン}	41
参たれば	98	付て	圖繪 ^{ツヅ}		嘆したまふ	46
たんくう(湛空)	113	つぐ(告)	て		きゝていよく	49
湛空 ^{タンクウ}		告て	て(手)↓おむて		むかへたてまつりて云	51
たんじやう(誕生)		つけて	て《助詞》↓もちて		さしてのたまはく	53
じやう	108	告 ^{ツケテ}	やめて烏頭變毛 ^{ウトウベンモウ} の宣旨 ^{センシ} を	3	かたりて云	54
誕生 ^{タンシヤウ}		つくす(盡)	かうふれり	18	功つもりて極樂 ^{ゴクワク} の莊嚴 ^{シャウゴン}	59
ち		不可盡	あたりて人 ^{ホン} く本望 ^{ホンバウ} やす	20	付てすゝむれば	62
ち(地)	14	つくる(作)	まりぬ	22	我みにをきては	71
地 ^チ		つくる	のりて管絃 ^{ソウケン} 遊戲 ^キ す	25	云てつるにこれをとりた	76
ちういん(中陰)	84	づだ(頭陀)	夢さめて聞 ^{モウ} に	28	まはす	77
中陰 ^{チュウイン}		頭陀 ^{ツタ}	そらに期 ^キ して蒙昧 ^{モウマイ} 身にい	28	なかくなひきて又圓形 ^{エンギョウ}	78
ちうじゆん(中旬)	145	つとむ(勤)	たれり	28	の雲 ^{クモ} もあり	81
中旬		つとめけり	告てのたまはく	28	きゝてのたまはく	84
ちうしんぱう(住真坊)	113	つね(恒)	天竺 ^{テンタク} にありて聲聞僧 ^{シヤウモン} にま	28	めをひらきて西方へみを	87
住真坊 ^{チュウシンパウ}		恒 ^{ツネ}	しわりて頭陀 ^{ツタ} を行き	28	くり給	91
ちかづく(近)		つひに(遂)	天竺 ^{テンタク} にありて聲聞僧 ^{シヤウモン} にま	28	問て云	94
			答てのたまはく	28		97

まかせて遺骨をおさめ 〔コウシ〕 凝て十重戒をうく たのみて敬て諷誦を此 砌に修す たのみて敬て諷誦を此 砌に修す 砌に修す さして云 聞て身の毛堅てあせをな かしてさめぬ 聞て身の毛堅てあせをな かしてさめぬ 聞て身の毛堅てあせをな かしてさめぬ 聞て身の毛堅てあせをな かしてさめぬ 責無間なり 到て念仏の聲やうやくか すかにて 袈裟をかけて頭北面西に 誦して 誦して念佛のいき絶たま ひぬ 止てのち 没して貴賤哀働して 告云 くつかへされて悔悲て	84 88 90 90 90 102 104 104 104 104 105 124 130 133 135 136 140 140 149	みつから焼すて、歸伏し ぬ くつかへされて悔悲て みつから焼すて、歸伏し ぬ くつかへされて悔悲て みつから焼すて、歸伏し ぬ くつかへされて悔悲て みつから焼すて、歸伏し ぬ かなしみて没後の導師を つとめけり ていこくす（啼哭） 憂悲啼哭しなから てうてう（重々） 重々の でし（弟子） 弟子 27 45 47 58 69 87 113 125 141 弟子 37 てんがい（天蓋） 天蓋 21 てんだいしう（天台宗） 天台宗 30 てんぢく（天竺） 天竺 28 てんどう（天童） 天童 20	てんわう（天皇）↓じゆんと くてんわう・たいじやうて んわう でんゑ（傳繪）↓ほふねんし やうにんでんゑ と と（戸）↓おむと と《助詞》 御沙汰として 三千餘人と云ゝ しむといゑとも 引導せむと思 思と云ゝ 往生せずと云 なしといひて にやいなやと をかみたてまつらすと云ゝ 念仏せよとすゝめ給 おかみたまふへしと おかむやと しかるへからすと云て 復讐として ちかつき給へるかと	73 76 76 79 91 91 91 99 101 103 108 111 120 126 129 155 157 44 55 99 164
---	--	---	---	--

とき(時)	↓うまのとき・た	唱 ^{トヤウ} へは	40	不退 ^{タイ} 也	27
つ	のとき・ひつじのとき・	唱 ^{トヤウ} 給へし	120	分明 ^{シミヤク} 也	32
みのとき		となへたまひ	144	ため也	33
時	18 20 77 107 109 119 132 162	となう	147	ところなれば	34
とき	100	となへ給	147	きたりたまへる也	39
ときどき(時々)		とふ(問)	147	こと也	56
時 ^{トキ}		聞 ^{キコ} に	22	ところなり	58
ときに(于時)		問 ^{トキニ} て	75	儀式 ^{ギシキ} なり	62
とくと(得度)	50 137	ともしび(燈)	79	五色鮮潔 ^{シキセツケツ} なり	71
得度 ^{トクト}		燈 ^{トモシビ}		あはれなるかな	73
ところ(所)		とり(鳥)	117	ためなりと	76
ところ	25 98	とりのこく(酉剋)		しかなりと	79
とし(歳)	26 34 58 101	西剋 ^{トリノコク}	123	ことなりと	101
とし	146	とる(取)		八幡宮 ^{ヤシロノミヤ} (去邊)也と	105
としごろ(年来)	↓ねんらい	とりたまはす	60 64	奇特 ^{キョク} なり	124
年来	56	とんでう(遁朝)	88	無間 ^{ムクワン} なり	127
とて《助詞》		遁朝 ^{トンドウ}		勇猛 ^{ユウモウ} にして	137
よろこはしきかなとて	27	な	11	計 ^{ケイ} 也	145
どど(度々)		なか(中)	12	柔軟 ^{ユウエン} にして	146
度々 ^{トナリトナリ}	155	中		五日也	148
とどまる(止)		ながし(長)	150	五日なり	148
止 ^{トマリ} て		なかくたなひきて	65	八十なり	150
となふ(唱)	136	ながす(流)		八旬也	151
				一心不乱 ^{イチシンラン} 念 ^{ネン} する	
				第一なり	

へされて

にうなん (柔軟)
ニウナン

柔軟にして

138

にぐわつ（二月）

二月
96
145

にし
（西）

11. 2013 (11.11.11)

二七日 94

にじふごにち（廿五日）

廿五日
77
123

にじふさむにち (廿三日)

廿三日

にじふしにち（廿四日）

廿四日 123

にじふにち (廿日)

甘日 264

にて《助詞》

奉行にて歸京のよし
17

かすかにて高聲は

にねん(二年) ↓けんりやく

にねん

には《助詞》

ところにはあらず

101

にふだう（入道）↓おほみや

にふだう・これかたにふだう

にほんこく (日本國)

日本國

にん (人) ↓ごろくにん・さ

むぜんよにん

にんでんだいゑ (人天大會)

人天大會

にんにん (人々)

人々

ぬ

ぬ《助動詞》

やすまりぬ

さめぬ

たまひぬ

歸伏しぬ

ね

ねむず (念)

念する功驗

ねむぶつ (念仏) ↓かうしや

うねむぶつ

念仏

ねむぶつしゆじやう (念仏衆生)

念佛衆生

ねん (年) ↓じふよねん

ねんらい (年来) ↓としごろ

年来

の

の《助詞》↓うまのとき・か

ねたかのおそん・すはうの

かみ・たつのとき・ひつじ

のとき・みつちかのきや

う・みなもとのおそんもり

ちか・みのとき・やまひの

ゆか

逆(入)鱗のいましめ

烏頭變毛の宣旨

隱居の後

吉水の前 大僧正の御沙汰

吉水の前 大僧正の御沙汰

吉水の前 大僧正の御沙汰

吉水の前 大僧正の御沙汰

大谷の禪房

大谷の禪房

切利の雲

南海の浪

一日夜のうち

幽閑の地

市のことし

歸京のよし

参内の時

結縁のため

十一日の辰の時

阿弥陀佛のきたりたまへ

る

佛の名号

念佛の功德

昔のことし

觀音勢至等の菩薩

臨終のために

三尺の弥陀の像

三尺の弥陀の像

三尺の弥陀の像

病床の右

此佛の外

念佛の功

極樂の莊嚴

佛菩薩等の身

恒のこと

9

11

13

14

16

17

20

33

36

39

40

41

42

44

48

48

48

49

52

54

54

55

56

佛の御手

五色の糸

かくのここの事

かくのここの事

つねの人の儀式

つねの人の儀式

坊の上

圓形の雲

圖繪の形像の圓光のこ

圖繪の形像の圓光のこ

とく

圖繪の形像の圓光のこ

とく

路次往反の人

往生のちかつき給へる

看病の人

佛の来給

午の正中

圓寂の月

茶毗の燈

弥陀感應の日

利生の風

垂迹の勝地

58

59

61

61

61

61

61

65

66

67

67

67

68

70

75

75

77

77

78

79

80

81

82

方便の善巧 ^{ゼンギョウ}	82	いまの上人 ^{イマノウジン}	108	つねのことし	139	のち
かくのことし	83	誕生の時 ^{タシニヤウ}	108	二月中旬の五日	145	のぶ(述)
世間の風俗 ^{フウソク} (入瀧)	83	ふたつのはた	109	正月下旬の五日	146	のへたてまつる
中陰の孝行 ^{チュウインノコウギョウ}	85	大菩薩の御本地 ^{ダイバツザツノミヨコチ}	109	その夜の夢	149	のる(乗)
大臣家の諷誦 ^{テイジンカノフウジュ} の文	86	袂のうへ	111	往生の業 ^{オウシヤウノゴフ} の中	149	のりて
大臣家の諷誦 ^{テイジンカノフウジュ} の文	87	道のしるへ	116	往生の業 ^{オウシヤウノゴフ} の中	150	は
遁朝 ^{トンチャウ} のゆふへ	87	とりのあと	117	六時 ^{ロクジ} 稱名	151	は
一心精進 ^{イチシンセイジン} の誠 ^{マコト}	88	七八年の初當 ^{シヨウタウ}	118	為孝養 ^{メニメニ}	153	は《助詞》↓には
蓮臺 ^{レンダイ} の妙業 ^{ミョウゴフ}	92	御臨終の時 ^{ミリンシヨウノトキ}	119	本地身 ^{ホコチミ}	154	往生は一切衆生結縁 ^{ケツエン} のため
覺鐘 ^{ケツショウ} の蓮韻 ^{レンイン}	93	光明遍照 ^{クワミヘンシヨウ} の四句 ^{シク} の文	120	衆生 ^{シュウジヤウ} 為化 ^{メニメニ} 二故 ^{ニコ}	155	め也
前周防守 ^{ゼンシュウボウシ}	94	光明遍照 ^{クワミヘンシヨウ} の四句 ^{シク} の文	122	一心の懇志 ^{キンシ}	156	かくのこときの事はこれ
惟方 ^{ユイホウ} 入道の娘 ^{ニョウ}	96	不退 ^{フタイ} のうゑ	123	所造 ^{ショゾウ} の選擇 ^{セタク} 集	160	つねの人の儀式なり
栗田 ^{トリス} 口の禪尼 ^{ゼンニ}	97	廿五日 ^{ニニチツ} の已尅 ^{イコク}	125	面謁 ^{メンエツ} の時	162	我みにをきてはいまかな
殯葬 ^{インサウ} の所 ^{トコロ}	98	助音 ^{シュオン} の人々	127	重々 ^{チュウチュウ} の問答 ^{モンタウ}	162	らすしもしかるへからす
八幡宮 ^{ハチマンミヤ} の御戸 ^{ミド}	98	病惱 ^{ヤマイナウ} の身	130	没後 ^{ボツゴ} の導師 ^{ダウシ}	165	往生は一切衆生をして念
上人の葬送 ^{サウソウ} のところ	100	念仏 ^{ニャンブツ} の聲 ^{コエ}	130	のぞむ(望)		仏を信せしめむかためなり
上人の葬送 ^{サウソウ} のところ	101	所持 ^{ショジ} の慈 ^ニ 去邇 ^{キニ} 覺大師 ^{カクダシ} の	132	望時 ^{ショウジ}	159	これは上人の葬送 ^{サウソウ} のところ
かたわらの人	102	所持 ^{ショジ} の慈 ^ニ 去邇 ^{キニ} 覺大師 ^{カクダシ} の	133	望給 ^{ショウキ} へる	159	ろにはあらず
法然上人 ^{フツネン} の御房 ^{ミボウ} の御躰 ^{ミタイ}	103	九條 ^{クウジョウ} の袈裟 ^{ケサ}	133	のぞむ(臨)	57	あとはありけり
法然上人 ^{フツネン} の御房 ^{ミボウ} の御躰 ^{ミタイ}	104	所持 ^{ショジ} の慈 ^ニ 去邇 ^{キニ} 覺大師 ^{カクダシ} の	133	のたまはく(宣)		御臨終の時 ^{ミリンシヨウノトキ} は光明遍照 ^{クワミヘンシヨウ} の
身の毛 ^{ミノモウ}	107	九條 ^{クウジョウ} の袈裟 ^{ケサ}	135	のたまはく(宣)	28 38 43 51 60 71 76	四句 ^{シク} の文を唱 ^{ナゲ} 給 ^キ へし
御誕生 ^{ミタシニ} の時	107	攝取 ^{セツキ} 不捨 ^{フセツ} の文	135	のち(後)	4	いたるまでは高聲 ^{コウセイ} 念仏 ^{ニャンブツ}
八の幡	107	念佛 ^{ニャンブツ} のいき	135	後 ^{ノチ}	83	を責 ^{セメ} 無間 ^{ムケン} なり
				しかうしてのち		人々は窮屈 ^{キウクツ} にをよふとい

[illegible]

ふじゆ <small>（諷誦）</small>	87	90	へ	ほか <small>（外）</small>	52	まき <small>（巻）</small> ↓くわんだいはち	
諷誦	158			外 <small>（外）</small>		まこと <small>（誠）</small>	
ふしよう <small>（梵鐘）</small> ↓ふしゆ			へ <small>《助詞》</small>	ぼさつ <small>（菩薩）</small> ↓だいでいし		まことに <small>（誠）</small>	88
ふす <small>（伏）</small>			内裏へ参たまへり	ぼさつ・ふげんぼさつ		まことに <small>（誠）</small>	
伏惟 <small>（伏）</small> は	78		西方へみをくり給	菩薩	44	まことに	26
ふたい <small>（不退）</small>			西へよしゆくへき道	ほとけ <small>（佛）</small> ↓ぶつ	45	まさしく <small>（正）</small>	
不退	27	122	べし <small>《助動詞》</small>	佛	75	まさしく	131
ふたつ <small>（二）</small>			あるへきよし	ほふしん <small>（法身）</small>		まさに <small>（正）</small>	
ふたつ	109		かへりゆくへし	法身	140	まさに	69
ぶつ <small>（佛）</small> ↓ほとけ			高聲念仏すへし	ほふねんしやうにん <small>（法然上人）</small>		まじはる <small>（交）</small>	
佛菩薩等	55		おかみたまふへしと	人		ましわりて	29
ぶつじ <small>（佛事）</small>			しかるへからす	法然上人	103	また <small>（又）</small>	
佛事	158		ゆくへき道	ほふねんしやうにんでん <small>（法然上人傳繪）</small>		又	31
ぶどうそん <small>（不動尊）</small>			唱給へしと	（法然上人傳繪）		また	52
不動尊	86		不可盡	ほんち <small>（本地）</small> ↓ごほんぢ	1	まつ <small>（待）</small>	58
ふらん <small>（不乱）</small> ↓いちしむふ			べつたう <small>（別當）</small>	法然聖人傳繪		まつ所 <small>（まつ所）</small>	66
らん			別當	ほんち <small>（本地）</small>		まつ <small>（先）</small>	43
ふる <small>（降）</small>			へん <small>（返）</small> ↓ごろくへん・じ	ほんばう <small>（本望）</small>	154	まづ <small>（先）</small>	105
ふりき	107		ふよへん	本望		先	140
ふれり	109		へんぜう <small>（遍照）</small> ↓くわうみ	ま		まで <small>《助詞》</small>	
ふんみやう <small>（分明）</small>	32		やうへんぜう	まうさく <small>（申）</small>	18	いたるまでは	154
分明			ほ	申さく		まなぶ <small>（學）</small>	124
			ほうじやう <small>（鳳城）</small>	まかす <small>（任）</small>	69	學て	30
			鳳城	まかせて	84	まるる <small>（參）</small>	15
						参事	23
						参たまへり	

参たれは まん(満)	98	みな(皆)	37	大因縁とならん かさらむかため	92	めつ(滅)	92
満八十	78 138	みなもとのあそんもりちか (源朝臣盛親)	37	みたてまつらんと	110	滅	144 144 147 147
み		源朝臣盛親	94	先迎接	154	めんえつ(面謁)	162
み(巳) ↓みのこく・みのと		巳尅	123	破せむかために	160	めんめん(面々)	12
き		巳時	64	むかし(昔)	9	めむくに	
み(身) ↓わがみ	25 55 104 127 154	みのとき(巳時)		昔	42	も	
身		巳時		むかし	87 117	も《助詞》	
みおくる(見送)		みやうがう(名号)	40	むかふ(迎)	49	一人も往生せず	40
みをくり給	74	みらく(見)		むかへたてまつりて		雲もあり	66
みぎり(右)	49	みらく	19 97	むげん(無間)		むかしもとの	117
右		みる(見)		無間	124	弟子等も憂悲啼哭し	141
みぎり(砌)		見たてまつること	55	むすめ(娘)	96	釋尊も滅をとなへ給	147
砌	90 142	みる	68	むまい(蒙昧)	25	かれも八十なり	148
みだ(弥陀)	48 80	みたてまつらんと	119	蒙昧	31	これも八句也	148
弥陀		みる様	112	蒙昧		もうまい(蒙昧) ↓むまい	148
みち(道)	116	みろく(弥勒)		め		もちて(以)	25
道		弥勒				もちて	51 114
みづから(自)	163	む				もつご(没後)	57 165
みづから						もつご(没後)	140
みつちかのきやう(光親卿)	16	む《助動詞》	35	め(眼)	74	もつご(没後)	
光親卿		引導せむと	73	め		もつご(没後)	
みづのえさる(壬申)	24 77	信せしめむかため		めうごふ(妙業)		もつご(没後)	
壬申						もつご(没後)	

もと(元)	28	33	やきすつ(焼捨)	163	ゆゑ(故)	89	より(助詞)	9
もと			焼すてゝ		故	89	雲より下給し	
もはら(最)	151		やすまる(安)	19	故	155	正月一日より老病そら	
最			やすまりぬ		ゆゑに(故) ↓ かるがゆゑに	159	に期して	24
もりちか(盛親) ↓ みなもと			やつ(八)	107	故に	107	十餘年よりこのかた	54
のあそんもりちか			やまひのゆか(病床)	49	よ		廿四日酉 尅より廿五日の	123
もん(文)	87	120	病床		よ(夜)	96	よりて(仍)	6
文	135		やむ(止)	3	夜	149	仍	92
もんだふ(問答)	162		やめて		よ(餘) ↓ さむぜんよにん・		よる(夜) ↓ よ	
問答			ゆ		じふよねん・じふよへん・		よろこばし(喜)	26
もんてい(門弟)	83		ゆか(床) ↓ やまひのゆか		はちじふよじ		よろこばし(喜)	
門弟			ゆく(行) ↓ かへりゆく	116	よ(助詞)	103	よろこぶ(喜)	10
や			ゆくへき道		御躰よと		よろこひおかみ	
や(夜) ↓ いちにちや			ゆげす(遊戲)	21	ようめう(容兒)	139	ら(等) ↓ とう	
や《助詞》 ↓ をや			管絃遊戲す		容兒		弟子等	38
おかみたてまつるにやい	45		ゆび(指)	51	よく(善・能)	152	弟子等	45
なやと			ゆひ		能	153	門弟等	141
おかむやと	52		ゆふべ(夕)	88	よし(由)	17	らうせう(老少)	83
なやと	45		ゆふへ		よし		老少	129
やう(様)	119		ゆみやう(勇猛)	127	よし(縦)	116	らうたい(老躰)	
やう			勇猛にして		よしゆくへき道		老躰	126
やうやく(漸)	130		ゆめ(夢)	19	よしみつ(吉水)	6	らうびやう(老病)	
やうやく			夢	22				
				97				
				105				
				118				
				149				

老病	24	臨終	48	圓形	66
らく《助詞》		りようがん(龍顔)	154	ゑんくわう(圓光)	
みらく	19	龍顔	2	圓光	67
り	97	る		ゑんじやく(圓寂)	
り《助動詞》		る《助動詞》		を	78
かうふれり	4	下さる	6	を《助詞》	
参たまへり	23	居たてまつらる	8	いましめをやめて	3
いたれり	25	仰出され侍けり	17	宣旨をかうふれり	3
きたりたまへる也	39	くつかへされて	163	院宣を下さる	6
現前したまへり	44	れ		下給しを	9
のそめり	57	れんだい(蓮臺)	28	浪をさかのほり給へは	11
垂布せり	65	蓮臺	33	供養をのへたてまつる	12
つらなれり	70	れんるん(蓮韻)	92	地をしむ	14
ちかつき給へるかと	70	蓮韻		天蓋をさしおほい	21
すゝめる一月	79	ろ	93	頭陀を行き	29
ふれり	109			天台宗を學て	30
参集せる道俗	128	ろくじ(六時)		念仏をすゝむ	31
見聞せる老少	128	六時		人を引導せむ	35
喪せるかことし	141	ろくじふろく(六十六)	150	涙をなかつ	37
望給へる故は	159	六十六	151	名号を唱れは	40
りしやう(利生)		ろじ(路次)	138	功德を讃嘆したまふ	41
利生	81	路次	68	これをきゝて	46
りむじゆう(臨終)				像を病床の右にむかへ	
じゆう					

たてまつりて	48	あせをなかし	104	をかみたてまつらす	45
ゆひをもちて	51	御本地を行教和尚みたて	110	をかみたまふへし	50
そらをさして	51	まつらんと	110	おかむや	52
身を見たてまつること	55	誦經物をさゝく	113	をさむ(収)	
これをいはす	57	一紙をもちて	114	おさめ	84
糸を付て	59	文を唱給へし	120	をや《助詞》	
これをとりたまはす	60	軀を責	124	をなしきをや	81
これをみる	64	袈裟をかけて	133		
一切衆生をして	68	文を誦して	135		
念仏を信せしめむ	72	舌を動か	137		
めをひらきて	72	考妃を喪せる	141		
遺骨をおさめ	74	滅をとなへ	141		
孝行をいたす	84	滅をとなう	144		
不動尊を供養す	85	成善	147		
誠を凝て	86	衆生為化	153		
十重戒をうく	88	誦誦を捧	155		
得度を彼岸(去濁)にたのみ	89	唱導を望給へる	158		
て	89	選擇集を破せむ	159		
誦誦を此砌に修す	90	浄土決疑抄三巻をつくる	160		
妙業をかさらむ	92	そのとかをかなしみて	161		
蓮韻を叩	93	導師をつとめけり	164		
御戸をひらく	98	をがむ(拝)	165		
御正軀をさして	102	をかみたてまつりし	166		
これを聞て	104	をかみたてまつる	170		

漢字索引凡例

- 一、この索引は、東京国立博物館蔵『法然上人傳繪』に用いられているすべての漢字を、翻字本文にもとづいて、収載したものである。
- 二、各項の記載形式は、当該漢字・本文の用例・本文の所在行数、とした。
- 三、排列は、『康熙字典』に基づき、部首順・画数順とした。
- 四、その他は、語彙索引に準じた。

法然上人	一人	人	五人	人	三千餘人	159 161	71 97	11 19	上人	人天大會	浩然聖人傳繪	2 人部	〔奇〕 ↓奇	〔京〕 ↓京	2 一部	五日	五六人	廿五日	五六返	五色	五人	云々
103	40	158	20	18	14		100 108 119 121 144 147	22 36 43 50	60	9	1		17			145 146	125	77 123	75	59 67	20	149

〔信〕 信 <small>シ</small> せしめむ	〔來〕 下 <small>シ</small> 来	〔侍〕 侍 <small>シ</small> けり	〔供〕 供養 <small>シ</small>	〔住〕 住 <small>シ</small> 真坊	佛事	念佛衆生	高聲念佛	高聲念仏	求佛坊	念佛 40 50 52 52 55 58	阿弥陀佛 39	念仏 31 47 54 72 38	高聲念仏 130 122	歸伏 <small>キヤフク</small> しぬ	伏 <small>フツ</small> 惟 <small>シ</small> は	仰 <small>オウ</small> 出 <small>シ</small> され	付 <small>ツ</small> て	以後 <small>イコノノチ</small>	以 <small>ヨリ</small> 佛 <small>ブツ</small>	仍 <small>オノ</small> 佛 <small>ブツ</small>	人々	五六人
72	17	12 86	113	158	134	127	124	95	41 135	75	39	130	122	164	78	17	59	121	87	6 92	126	125
		〔先〕 先 <small>シ</small> 師	光明遍照	圓光 <small>エンクワウ</small>	光親 <small>クワシ</small> 卿	神 <small>カミ</small> 去 <small>キヤク</small> 瀧 <small>タニ</small> 宮皇 <small>ミヤミコ</small> 后元年	建曆 <small>ケンリヤク</small> 元垂	2 儿部	〔儀〕 儀式	形 <small>カタ</small> 像 <small>ゾウ</small>	像 <small>ゾウ</small> 正	僧正	聲聞僧	〔傳〕 大僧正 法然聖人傳繪	〔傳〕 專修	〔修〕 修 <small>シ</small> す	〔便〕 方便	〔俗〕 道俗 <small>（入瀧）</small>	〔俗〕 道俗	〔俗〕 道俗	〔俗〕 信蓮坊	
		154	87	119 134	67	16	106	2	62	67	48	159	29	6	1	152	90	82	128	84	12	85
		〔六〕 公胤	公胤	公胤	公胤	公胤	公胤	公胤	公胤	公胤	公胤	公胤	公胤	公胤	公胤	公胤	公胤	公胤	公胤	公胤	公胤	
		六十六	六十六	六十六	六十六	六十六	六十六	六十六	六十六	六十六	六十六	六十六	六十六	六十六	六十六	六十六	六十六	六十六	六十六	六十六	六十六	
150	151	138	138	125	75	153	149	148	146	118	114	107	107	101	98	78 138	1	22	20	96	86	
		〔前〕 現前 <small>マゼ</small> したまへり	〔到〕 到 <small>キタ</small> て	〔利〕 利 <small>リ</small> 生 <small>シヤウ</small>	〔別〕 別 <small>ワケ</small> 當 <small>タウ</small>	〔初〕 初 <small>ハジメ</small> 七日	〔分〕 分 <small>ワケ</small> 明 <small>ミヤウ</small>	〔切〕 切 <small>キレ</small> 一切衆生	〔出〕 仰 <small>オウ</small> 出 <small>シ</small> され	〔凡〕 凡	〔凝〕 凝 <small>コエ</small> て	〔兼〕 兼 <small>カミ</small> 隆朝臣	〔兼〕 兼 <small>カミ</small> 隆朝臣	〔兼〕 兼 <small>カミ</small> 隆朝臣	〔兼〕 兼 <small>カミ</small> 隆朝臣	〔兼〕 兼 <small>カミ</small> 隆朝臣	〔兼〕 兼 <small>カミ</small> 隆朝臣	〔兼〕 兼 <small>カミ</small> 隆朝臣	〔兼〕 兼 <small>カミ</small> 隆朝臣	〔兼〕 兼 <small>カミ</small> 隆朝臣	〔兼〕 兼 <small>カミ</small> 隆朝臣	
		6	94	130	81	9	93	96	118	85	32	72	33	17	53 157	88	118					

〔夏〕 夏鵬 カキウ	3 文部	〔壬〕 壬申 ミツノヘサル	3 士部	〔城〕 鳳城 ホウジョウ	4	〔垂〕 垂迹 テリヅク	82	〔垂〕 垂布 テリフ	65	〔坊〕 住真坊 ジュンマフ	113	〔坊〕 求佛坊 モトブツフ	95	〔坊〕 信蓮坊 シンレンフ	85	〔坊〕 坊 フ	65	〔地〕 本地 ホコチ	154	〔地〕 御本地 ミホコチ	110	〔地〕 勝地 カチ	82	〔土〕 淨土決疑抄 ジユツケツギサウ	14	161	3 土部	〔圖〕 圖繪 ズエ	66	〔圖〕 圓寂 エンキヤク	78	〔圖〕 圓光 エンクワウ	67	〔圖〕 圓形 エンケイ	66	〔圖〕 慈圓慈鎮和尚 ジエンジジンワウ	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
138		24 77																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													

〔岸〕 彼岸 <small>ヒナガ</small> (去濁)	3 山部	〔屈〕 窮屈 <small>キウキツ</small> 居 <small>イ</small> たてまつらる	〔居〕 隱居 <small>インキョ</small>	〔尾〕 勝尾 <small>シヤウビ</small>	〔尼〕 禪尼 <small>シヤニ</small>	〔尺〕 三尺 <small>サンシヤク</small>	3 戸部	〔尚〕 慈圓 <small>スヰエン</small> 慈鎮 <small>ジジン</small> 和尚 <small>イコウ</small>	〔少〕 老少 <small>シヤウシヤウ</small>	〔小〕 小善根 <small>シヤンゲン</small>	3 小部	〔導〕 釋尊 <small>シヤクソウ</small> 引 <small>ヒキ</small> 導 <small>ドウ</small> せむ	85 95	144 147								
89		126	33	7	4	4	97	48	110	6	129	90	165	159	112							
		〔幡〕 八幡 <small>ハチハタ</small> 大菩薩 <small>ダイボサツ</small>	〔師〕 先師 <small>センシ</small> 御導師 <small>ミダウシ</small>	〔布〕 垂布 <small>シュフ</small> せり	〔市〕 市 <small>イチ</small>	3 巾部	〔卷〕 三卷 <small>サンクワン</small> 第八 <small>ダイハチ</small>	〔巳〕 巳 <small>ミ</small> 時 <small>トキ</small> 巳 <small>ミ</small>	〔巧〕 善巧 <small>センコウ</small>	3 工部												
		107	107	101	98	165	132	112	87	95	65	16	161	1	123	106	64	82				
		〔建〕 建曆 <small>ケンリヤク</small> 二年 <small>ニネン</small>	〔度〕 度 <small>タク</small>	〔床〕 病 <small>ヒヤウシヤウ</small> 床 <small>トコ</small>	〔幽〕 幽閑 <small>ユウカン</small>	3 幺部	〔華〕 華 <small>カ</small>	〔年〕 建曆 <small>ケンリヤク</small> 二年 <small>ニネン</small>	3 干部													
		24 77 95	2	155	89	49	14	132	118	106	78	56	53	95	2							
		〔形〕 圓形 <small>エンケイ</small> 形 <small>ケイ</small> 像 <small>ゾウ</small>	〔弥〕 彌陀 <small>ミダ</small> 阿彌陀佛 <small>アミトブツ</small>	〔弟〕 弟子 <small>テシ</small>	〔引〕 引 <small>ヒキ</small> 導 <small>ドウ</small> せむ	3 弓部	〔式〕 儀式 <small>キギシキ</small>	〔廿〕 廿日 <small>ニニチ</small>	3 卅部													
		67	66	112	111	80	39	83	37	27	45	47	58	69	87	113	35	62	123	121	77	2 64

〔徳〕 順徳天皇 シユントクテンワフ	〔優〕 優健として アイケンシテ	〔健〕 御臨終 ミリンシュウ	御本地 ミホコ	御誕生 ミタマユ	御鉢 ミハツ	御房 ミフウ	御正鉢 ミシヤクハツ	御戸 ミド	御導師 ミダウシ	御手 ミテ	御沙汰 ミサタ	〔御〕 御度 ミタク	〔得〕 得度 トクタク	〔後〕 没後 ミツゴ	〔後〕 没後 ミツゴ	〔彼〕 彼岸 ミツゴ	〔彼〕 彼岸 ミツゴ	〔往〕 往生 ミツゴ	〔往〕 往生 ミツゴ	3 イ 部					
5	64	64	119	110	106	103	103	99	98	85	59	7	89	132	121	57	165	4	142	89	68	40	32 70 72 149 151		
〔悲〕 憂悲 ウヒ	〔惟〕 惟方入道 ヒカフドウ	〔惱〕 伏惟 フツヒ	〔恵〕 病燈 ビョウドウ	〔恒〕 恒燈 コウドウ	〔悔〕 悔燈 クワイドウ	〔思〕 思 シ	〔思〕 念する ネンスル	〔思〕 念佛衆生 ネンブシュウ	〔念〕 念佛 ネンブツ	〔念〕 念佛 ネンブツ	〔念〕 念佛 ネンブツ	〔念〕 念佛 ネンブツ	〔念〕 念佛 ネンブツ	〔志〕 高聲念仏 カウシヤウネンブツ	〔切〕 懇志 コンシ	〔必〕 一心不乱 イツシンフラン	〔心〕 一心 イツシン	〔心〕 身心 シンシン	4 心 部	功徳 クツトク					
142	96	78	127	139	56	163	35	23	150	134	127	124	135	41	72	38	122	156	9	151	150	88	156	31	41
〔房〕 御房 ミフウ	〔戸〕 禪房 ゼンフウ	〔戸〕 御戸 ミド	4 戸 部	〔戲〕 遊戲 キ	〔或〕 或は アルハ	〔或〕 或は アルハ	〔或〕 或は アルハ	〔戒〕 十重戒 ジュウジュウケイ	〔我〕 我 ミ	〔我〕 我 ミ	〔我〕 我 ミ	〔成〕 成 ユ	4 戈 部	〔懇〕 懇志 コンシ	〔應〕 感應 オウイン	〔憂〕 憂悲 ウヒ	〔働〕 哀働して アイドウシテ	〔慈〕 慈圓 ジエン	〔慈〕 慈圓 ジエン	〔慈〕 慈圓 ジエン	〔慈〕 慈圓 ジエン	〔慈〕 慈圓 ジエン	〔慈〕 慈圓 ジエン	〔慈〕 慈圓 ジエン	〔慈〕 慈圓 ジエン
103	7	98		21	122	27	19	118	89	62	32	33	153		156	80	141	140	132	6	6	80	163		
〔變〕 烏頭變毛 ウダウヘンモウ	〔敬〕 敬白 ケイハク	〔敬〕 敬白 ケイハク	〔教〕 行教和尚 コウケウガウ	〔故〕 故は コトハ	〔故〕 故は コトハ	〔故〕 故は コトハ	〔故〕 故は コトハ	4 女 部	〔攝〕 攝取不捨 セツクフセツ	〔擇〕 選擇集 セツクフセツ	〔摺〕 摺本 セツクフセツ	〔捧〕 捧 ホウ	〔接〕 迎接 セツクフセツ	〔捨〕 攝取不捨 セツクフセツ	〔持〕 所持 シ	〔抑〕 抑 オウ	〔抄〕 淨土決疑抄 ジュツトクケツギセウ	〔手〕 御手 ミテ	4 手 部	〔所〕 所 シ	〔所〕 所 シ	〔所〕 所 シ	〔所〕 所 シ	〔所〕 所 シ	〔所〕 所 シ
3	94	90	110	159	155	107	58		134	160	114	158	154	135	132	118	32 106	161	59			160	132	98	25

[illegible]

〔盛〕 源朝臣盛親 94	5 皿部	〔皇〕 神(去邁)宮皇后元年 106	〔皆〕 皆 5	〔見〕 容兒 37	〔白〕 敬白 139	94	5 白部	〔痛〕 苦痛 31	127	75	〔病〕 看病 49	24	5 广部	〔疑〕 浄土決疑抄 161	5 疋部	〔當〕 初當 118	93 96	〔番〕 番に 125
〔空〕 源空 153	5 穴部	〔稱〕 稱名 151	〔秋〕 春秋 137	〔季〕 ↓年 5 禾部	〔禪〕 禪尼 97	7	〔神〕 神(去邁)宮皇后元年 106	〔祈〕 祈願したまひ 111	5 示部	〔破〕 破せむ 160	〔砌〕 砌 90 142	5 石部	〔眼〕 開眼 156	〔真〕 住真坊 113	〔看〕 看病 75	5 目部	〔盡〕 不可盡 153	
〔紙〕 一紙 114	〔糸〕 糸 59	6 糸部	〔精〕 精進 88	〔粟〕 粟田口 96	6 米部	〔管〕 管絃 20	〔節〕 季節 143	〔答〕 問答 162	〔等〕 等 76	〔等〕 等 141	〔第〕 卷第八 38	〔竺〕 天竺 151	6 竹部	〔豎〕 豎て 1	〔童〕 天童 28	5 立部	〔窮〕 窮屈 126	源空 154
〔考〕 考妃 140	6 老部	〔義〕 義氏 113	6 羊部	〔繪〕 圖繪 66	〔緣〕 大因緣 1	〔經〕 誦經物 91	〔絶〕 絶たまひぬ 33	〔結〕 結縁 113	〔給〕 給(タマヒ) 135	〔給〕 給(タマヒ) 33	〔給〕 給(タマヒ) 147	〔給〕 給(タマヒ) 120	〔給〕 給へは 159	〔給〕 給し 74	〔終〕 御臨終 47	〔紫〕 紫雲 75	〔絃〕 管絃 37	〔納〕 權(去邁)中納言 12

〔臆〕 夏臆 <small>カカシ</small>	〔能〕 公胤 <small>コウイン</small>	〔胤〕 公胤 <small>コウイン</small>	6 肉部	高聲 <small>カウシヤウ</small>	聲 <small>セイ</small>	高聲念佛 <small>カウシヤウノブツ</small>	高聲念仏 <small>カウシヤウノブツ</small>	聲聞僧 <small>セイモンゾウ</small>	〔聲〕 高聲念仏 <small>カウシヤウノブツ</small>	見聞 <small>ケンモン</small>	聞 <small>ケン</small>	〔聞〕 聲聞僧 <small>セイモンゾウ</small>	〔聖〕 聖衆 <small>セイシュ</small>	〔聖〕 法然聖人傳繪	6 耳部	〔者〕 者 <small>ハ</small>	老幼 <small>ラウヨウ</small>	老幼 <small>ラウヨウ</small>	〔老〕 老病 <small>ラウビョウ</small>
138	153	153	149	131	136	127	124	29	27 36 38	128	104	29	22	44	1	151	129	126	24
〔菩〕 菩薩 <small>ボツサツ</small>	〔茶〕 茶毗 <small>チャヒ</small>	〔莊〕 莊嚴 <small>シュウエン</small>	〔苦〕 苦痛 <small>クツウ</small>	6 艸部	〔色〕 五色 <small>シキ</small>	6 舌部	〔舌〕 舌 <small>シツ</small>	6 舌部	〔臺〕 蓮臺 <small>レンタイ</small>	〔臺〕 蓮臺 <small>レンタイ</small>	〔至〕 勢至 <small>セイシ</small>	〔至〕 勢至 <small>セイシ</small>	6 至部	〔臨〕 御臨終 <small>ミリンシュウ</small>	〔臨〕 臨終 <small>リンシュウ</small>	兼隆 <small>カネタカ</small> 朝臣 <small>アソノミヤ</small>	〔臣〕 大臣 <small>ダイシン</small> 源朝臣 <small>ゲンアソノミヤ</small> 朝臣 <small>アソノミヤ</small> 盛親 <small>セイシン</small>	6 臣部	〔臣〕 大臣 <small>ダイシン</small> 源朝臣 <small>ゲンアソノミヤ</small> 朝臣 <small>アソノミヤ</small> 盛親 <small>セイシン</small>
44 55	79	55	31	59 67		137			92	154	43 82			119	48 154	118	94	86	
〔衆〕 一切衆生 <small>イツセウジヤウ</small>	〔處〕 處 <small>シュ</small>	6 血部	〔處〕 處 <small>シュ</small>	6 虎部	大勢至菩薩 <small>ダイセイシボツサツ</small>	八幡大菩薩 <small>ハツパンダイボツサツ</small>	大菩薩 <small>ダイボツサツ</small>	普賢菩薩 <small>フケンボツサツ</small>	〔蓮〕 蓮 <small>レン</small>	〔蓮〕 蓮 <small>レン</small>	〔蓮〕 蓮 <small>レン</small>	〔蓮〕 蓮 <small>レン</small>	〔蓮〕 蓮 <small>レン</small>	〔蓮〕 蓮 <small>レン</small>	〔蓮〕 蓮 <small>レン</small>	〔蓮〕 蓮 <small>レン</small>	〔蓮〕 蓮 <small>レン</small>	〔蓮〕 蓮 <small>レン</small>	〔蓮〕 蓮 <small>レン</small>
33 72	68			155	107	106 109	95	44 55	93	92	85	31	25	21	142	100	97	154	106 109
〔見〕 見たてまつる	〔西〕 西方 <small>セイフ</small>	7 見部	〔西〕 西方 <small>セイフ</small>	6 西部	〔袈〕 袈裟 <small>ケサ</small>	〔裏〕 裏 <small>ウラ</small>	〔袈〕 袈裟 <small>ケサ</small>	〔袈〕 袈裟 <small>ケサ</small>	〔袈〕 袈裟 <small>ケサ</small>	〔袈〕 袈裟 <small>ケサ</small>	〔袈〕 袈裟 <small>ケサ</small>	〔袈〕 袈裟 <small>ケサ</small>	〔袈〕 袈裟 <small>ケサ</small>	〔袈〕 袈裟 <small>ケサ</small>	〔袈〕 袈裟 <small>ケサ</small>	〔袈〕 袈裟 <small>ケサ</small>	〔袈〕 袈裟 <small>ケサ</small>	〔袈〕 袈裟 <small>ケサ</small>	〔袈〕 袈裟 <small>ケサ</small>
55	133	116	74		133	22	133	111											
〔行〕 行 <small>ギョウ</small>	〔行〕 行 <small>ギョウ</small>	〔行〕 行 <small>ギョウ</small>	〔行〕 行 <small>ギョウ</small>	〔行〕 行 <small>ギョウ</small>	〔行〕 行 <small>ギョウ</small>	〔行〕 行 <small>ギョウ</small>	〔行〕 行 <small>ギョウ</small>	〔行〕 行 <small>ギョウ</small>	〔行〕 行 <small>ギョウ</small>	〔行〕 行 <small>ギョウ</small>	〔行〕 行 <small>ギョウ</small>	〔行〕 行 <small>ギョウ</small>	〔行〕 行 <small>ギョウ</small>	〔行〕 行 <small>ギョウ</small>	〔行〕 行 <small>ギョウ</small>	〔行〕 行 <small>ギョウ</small>	〔行〕 行 <small>ギョウ</small>	〔行〕 行 <small>ギョウ</small>	〔行〕 行 <small>ギョウ</small>
114	110	85	78	29	17														
〔行〕 行 <small>ギョウ</small>	〔行〕 行 <small>ギョウ</small>	〔行〕 行 <small>ギョウ</small>	〔行〕 行 <small>ギョウ</small>	〔行〕 行 <small>ギョウ</small>	〔行〕 行 <small>ギョウ</small>	〔行〕 行 <small>ギョウ</small>	〔行〕 行 <small>ギョウ</small>	〔行〕 行 <small>ギョウ</small>	〔行〕 行 <small>ギョウ</small>	〔行〕 行 <small>ギョウ</small>	〔行〕 行 <small>ギョウ</small>	〔行〕 行 <small>ギョウ</small>	〔行〕 行 <small>ギョウ</small>	〔行〕 行 <small>ギョウ</small>	〔行〕 行 <small>ギョウ</small>	〔行〕 行 <small>ギョウ</small>	〔行〕 行 <small>ギョウ</small>	〔行〕 行 <small>ギョウ</small>	〔行〕 行 <small>ギョウ</small>
155	134	44																	

〔集〕	〔隱〕	〔隆〕	〔陰〕	〔院〕	〔阿〕	〔陀〕	〔防〕	〔閑〕	〔間〕	〔開〕	〔門〕	〔鐘〕	
參 ^{サン} 集 ^{シユ} せる	隱 ^{イン} 居 ^{キョ}	兼 ^{ケン} 隆 ^{リウ} 朝 ^{テウ} 臣 ^{シン}	中 ^{チュウ} 陰 ^{イン}	院 ^{エン} 宣 ^{セン}	阿 ^ア 彌 ^ミ 陀 ^タ 如 ^{ニョ} 來 ^{ライ}	彌 ^ミ 陀 ^タ 佛 ^{フツ}	周 ^{シュウ} 防 ^{フウ} 守 ^{ショ}	幽 ^{ユウ} 閑 ^{カン}	無 ^ム 間 ^{カン} なり	世 ^セ 間 ^{カン}	開 ^{カイ} 眼 ^{ガン}	門 ^{モン} 弟 ^{テイ}	亮 ^{リョウ} 鐘 ^{チュウ}
8 佳部							8 卓部				8 門部		
128	4	118	84	5	111	48 80	39	29	111	39	94		93
〔願〕	〔題〕	〔顏〕	〔頭〕	〔順〕	〔韻〕	〔音〕	〔面〕	〔雲〕	〔雜〕				
祈 ^キ 願 ^{ガン} したまひ	龍 ^{リウ} 顔 ^{ガン}	頭 ^{トウ} 北 ^{ホク} 面 ^{メン} 西 ^{サイ}	頭 ^{トウ} 陀 ^タ 變 ^{ベン} 毛 ^{モウ}	順 ^{ジュン} 德 ^{タク} 天 ^{テン} 皇 ^{ワウ}	蓮 ^{レン} 韻 ^{イン}	觀 ^{カン} 音 ^{イン}	面 ^{メン} 謁 ^{ケツ}	紫 ^シ 雲 ^{ウン}	雲 ^{ウン} 客 ^{カク}	雲 ^{ウン}	8 雨部	選 ^{セン} 擇 ^{タク} 集 ^{ヤク}	
111	156	2	133	29	3	5	162	133		64 19 20 69 118 66		152 160	
〔高〕	〔骨〕	〔驗〕	〔餘〕	〔養〕	〔風〕								
高 ^{カウ} 聲 ^{セイ} 念 ^{ネン} 佛 ^{ハツ}	遺 ^イ 骨 ^{コツ}	功 ^{コウ} 驗 ^{ゲン}	十 ^{ジュ} 餘 ^{ジョ} 遍 ^{ベン}	孝 ^{コウ} 養 ^{ヤウ}	風 ^{フウ} 俗 ^{ソク} (入濁)								
127	84	151	137	114	53	14	153	86		84	81		
〔龍〕	〔鳳〕	〔覺〕	〔鱗〕	〔鮮〕									
龍 ^{リウ} 顏 ^{ガン}	鳳 ^{フウ} 城 ^{セイ}	覺 ^{ケツ} 鐘 ^{チュウ}	逆 ^{ギャク} 入 ^{ニョク} 濁 ^{ダク} 鱗 ^{リン}	鮮 ^{セン} 潔 ^{ケツ} な ^ナ り									
16 龍部	11 鳥部	11 魚部											
2	4	93	2	67									